

2017年3月期 第3四半期 決算の概要

2017年2月1日
日本ユニシス株式会社



Foresight in sight

第3四半期累計業績は、アウトソーシングを中心に総利益は増加するも
販管費増加により営業減益。四半期純利益は増益を確保。

(単位：億円)

	3Q累計(4-12月)		前年同期比 増減	
	2017/3期	2016/3期		
売上高	1,882	1,889	▲7	▲0.4%
売上総利益	454	448	+7	+1.5%
販管費	▲380	▲372	▲8	▲2.2%
営業利益	75	76	▲2	▲2.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	51	45	+7	+14.6%
受注高	1,913	1,857	+56	+3.0%
受注残高	2,147	2,070	+77	+3.7%

<3Q累計決算のポイント>

- 売上高
システムサービス、アウトソーシングが伸長するも、製品販売の減少により減収。
- 営業利益
アウトソーシングを中心に総利益は増加するも、販管費増加により減益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益
営業外損失の減少等により増益。
- 受注高・受注残高
アウトソーシングが堅調に推移し、受注・受注残高ともに増加。

■3Q累計業績の推移 (単位：億円)



CFOの向井でございます。2017年3月期第3四半期の決算概要について、ご説明申し上げます。
資料の1ページをご覧ください。

当第3四半期累計の業績は、売上高は前年同期比▲7億円減収の1,882億円、
営業利益は前年同期比▲2億円減益の75億円、純利益は前年同期比+7億円増益の51億円となりました。

売上高は、システムサービス、アウトソーシングが伸長したものの、製品販売の減少により
減収となりました。

利益面では、アウトソーシングを中心に増益となり、売上総利益が前年同期比で7億円の増益となった
一方、販管費は退職給付費用・外形標準課税の負担増に加え、賞与引当の計上タイミングを変更した
影響等から、前年同期比で▲8億円増加し、営業利益は▲2億円の減益となりました。
純利益につきましては、営業外損失の減少等により+7億円の増益となっております。

なお、賞与引当の計上のタイミングの変更について、若干補足説明をさせていただきます。
賞与に関しましては前期末に営業利益に連動する業績連動のフォーミュラを労使間で取り決めました。
それに伴いまして、従来は賞与を第2四半期末と第4四半期末に引当計上していましたが、
今期から各四半期ごとに引当計上しております。

当期第3四半期においては、原価に10億円、販管費に8億円、合計で18億円の賞与を計上いたしました。
したがって、この賞与引当計上の影響を除いたベースで比較しますと、当第3四半期累計の売上総利益
は前年同期比+17億円の増益、販管費は前年同期並となり、営業利益は+16億円の増益となります。

次に受注高については、アウトソーシングの受注増加に伴い、前年同期比+56億円増加の1,913億円とな
りました。

受注残高につきましても、前年同期比+77億円増加の2,147億円となっております。

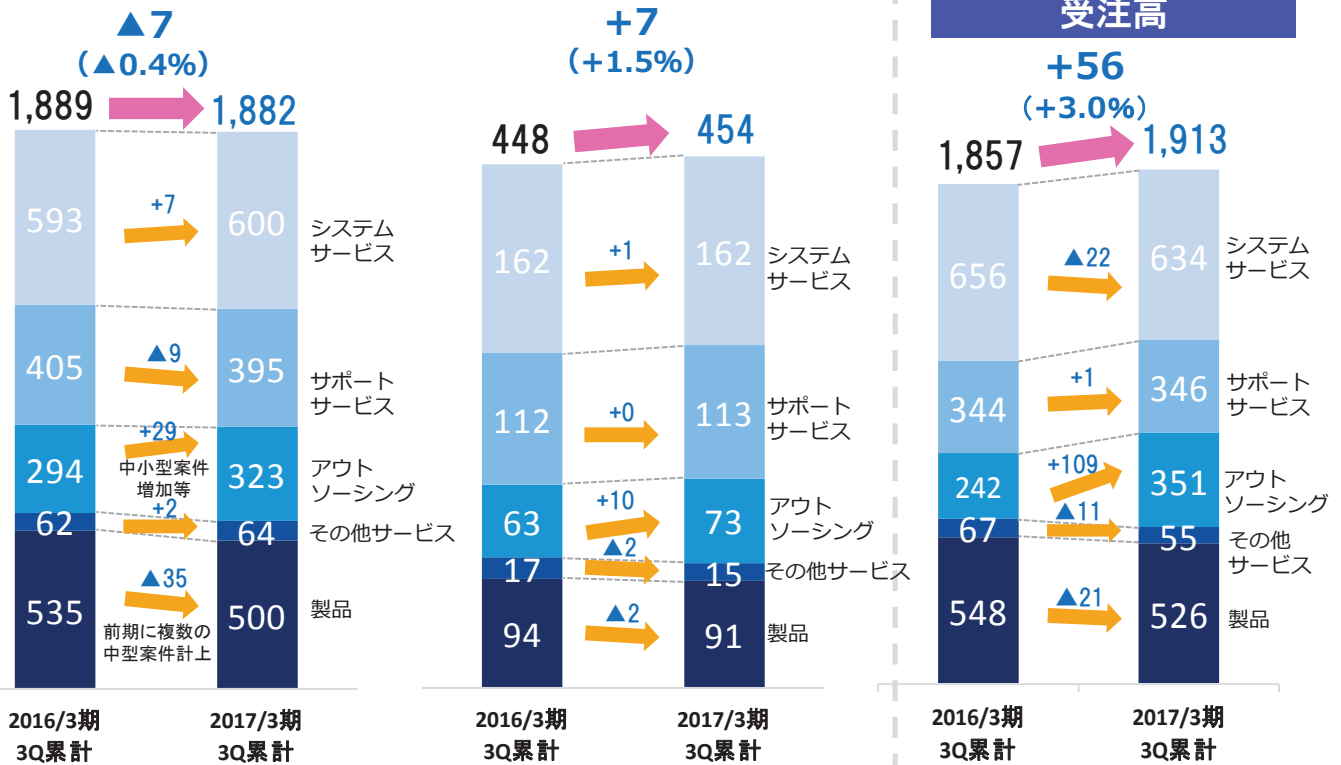
(単位：億円)

売上高

売上総利益

【ご参考】

受注高



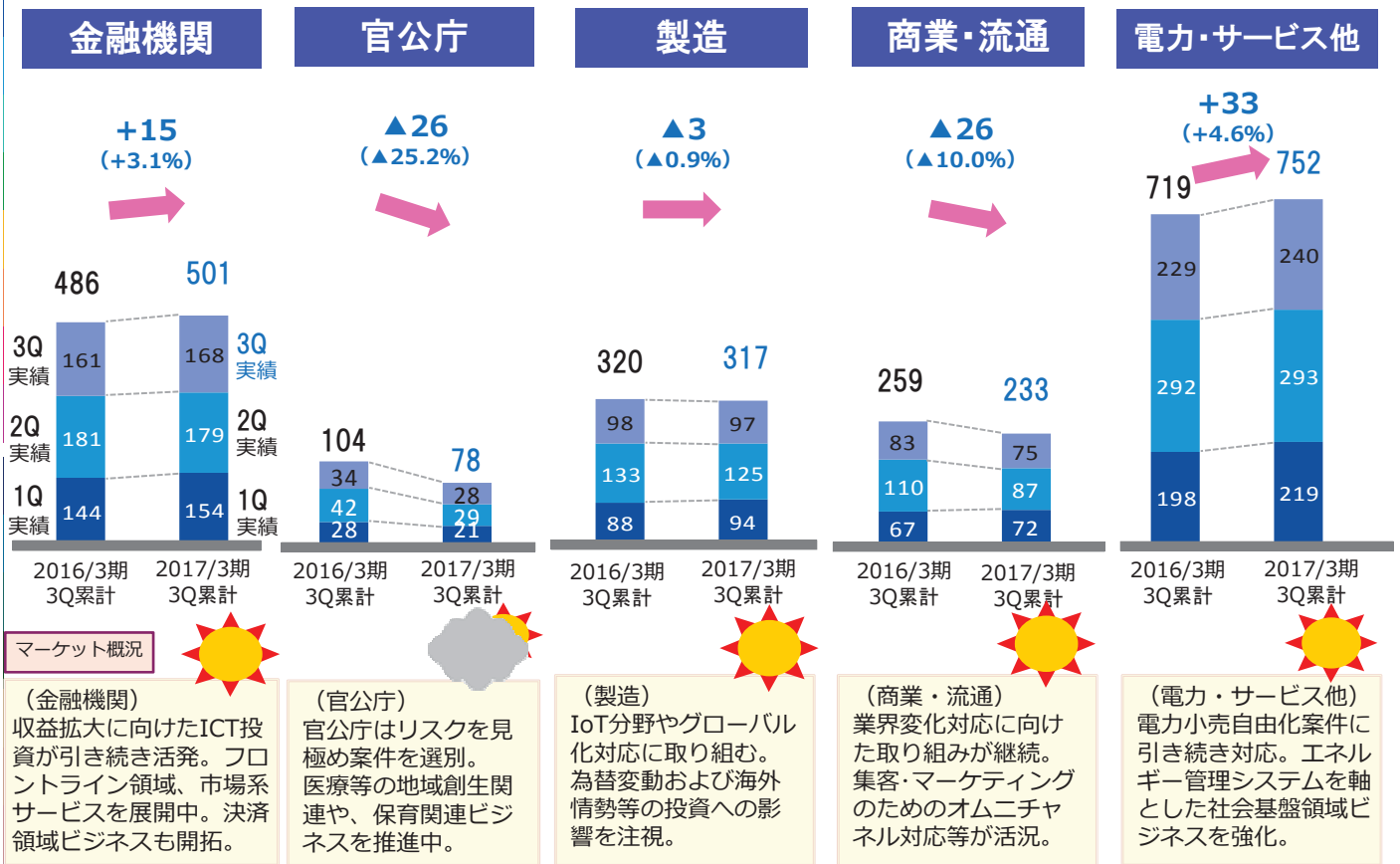
続きまして、セグメント別の状況についてご説明いたします。資料の2ページをご覧ください。

システムサービスおよびアウトソーシングは、引き続き堅調に推移し、増収・増益となりました。特に、アウトソーシングにおいて中小型案件やバリューカード案件などが増収・増益を牽引しております。

製品販売については、前年同期に中型案件の計上が複数あった影響で減収となっておりますが、利益率が改善していることから、売上総利益は前年同期並となっております。

なお、当第3四半期においても不採算案件は発生しておりません。

(単位：億円)



UNISYS

続きまして、マーケット別の状況をご説明いたします。資料の3ページをご覧ください。

金融および電力・サービス他は引き続き売上が拡大しております。

金融は、収益拡大のためのICT投資が引き続き活発となっており、当社におきましては、フロントライン領域や市場系サービスを積極的に展開しております。

官公庁はリスクを見極め案件を選別している影響により減収となっておりますが、地域医療連携などの地域創生関連や、保育分野といった日本の抱える社会課題解決に向けた取り組みを推進しております。

製造は、引き続き自動車を中心に需要は堅調に推移しており、IoT分野への取り組み等を強化しております。

商業・流通は、前年同期に機器販売を中心とした複数の中型案件を計上した影響で減収となっておりますが、オムニチャネル対応に向けた取り組み等が本格化してきており、お客様の投資意欲は活発です。

電力・サービス他では、引き続き電力小売自由化案件に対応するとともに、エネルギー管理システムを軸とした社会基盤領域ビジネスに取り組んでおります。

通期の売上高、営業利益、当期純利益の予想は
公表値（11月4日）から変更なし

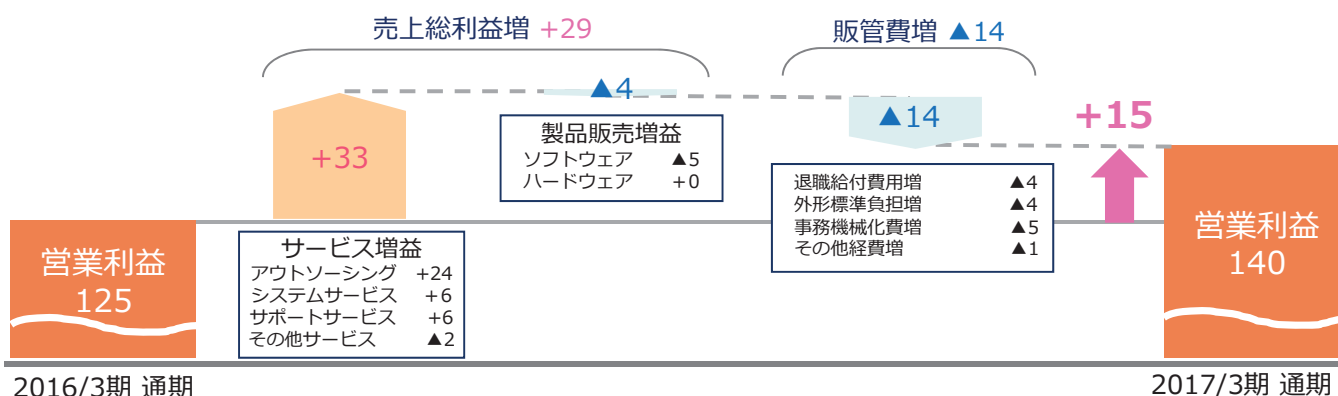
（単位：億円）

	2017年3月期	3Q累計実績	2017年3月期	4Q予想	2017年3月期	通期予想
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	1,882	▲7	968	+77	2,850	+70
営業利益	75	▲2	65	+16	140	+15
親会社株主に帰属する 四半期純利益	51	+7	49	+4	100	+11

* 通期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

【2017年3月期 通期 営業利益の増減分解】

（単位：億円、増減は前期比）



業績予想についてご説明いたします。資料の4ページをご覧ください。

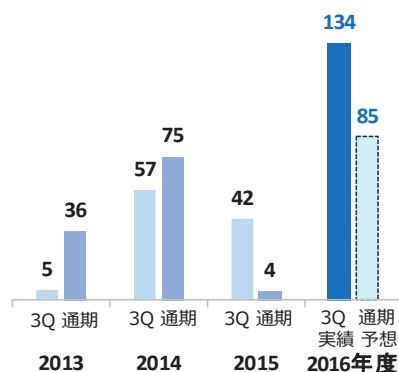
通期予想の売上高、営業利益、当期純利益予想については、11月4日の公表値から変更ございません。

営業利益の増減益要因のグラフにありますとおり、
売上総利益は、アウトソーシングを中心に合計+29億円の増益を予定しており、
また、販管費は退職給付費用の負担増等により▲14億円の増加を見込むことから、
営業利益は+15億円増益の140億円を計画しております。

▼ 今年度3Q実績 ▼ 前年度3Q実績

フリー・キャッシュ・フロー

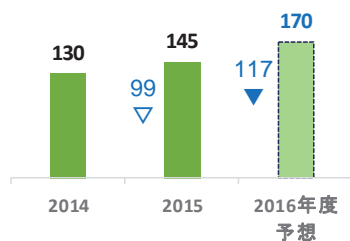
(単位：億円)



売上高

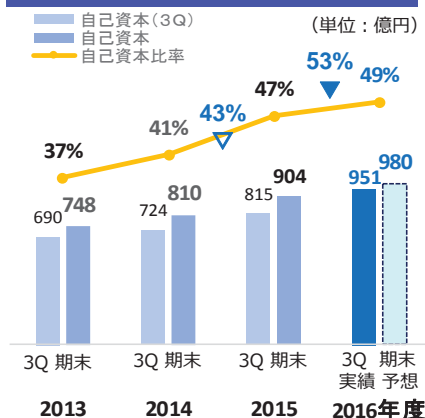
デジタルイノベーション

(単位：億円)



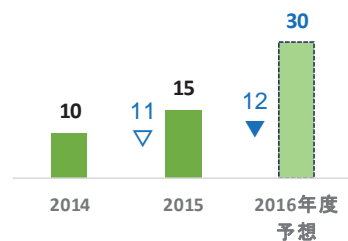
自己資本

(単位：億円)



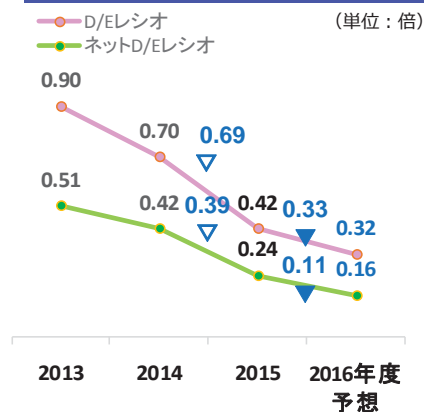
ライフイノベーション

(単位：億円)



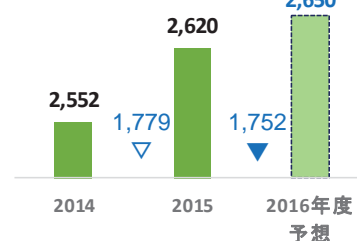
D/Eレシオ

(単位：倍)



ビジネスICTプラットフォーム

(単位：億円)



続きまして、5ページをご覧ください。

ご参考までに財務面では、
第3四半期でのフリー・キャッシュ・フローは134億円のポジティブ、自己資本比率は53%、
ネットD/Eレシオは0.11倍となっており、財務体質も引き続き着実に改善しております。

以上をもちまして、2017年3月期第3四半期 決算概要の説明を終了いたします。

Foresight in sight

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。